

| | | | |
|---|-----------|------|-----------------|
| 科目名 | 学校教育心理学特論 | 担当教員 | 平出 彦仁 |
| 科目属性 | 専門科目 A | 単位数 | 2単位 (面接 0.5 単位) |
| <p>【授業の目的・ねらい】</p> <p>学校教育心理学は、とくに学校現場に係る教育心理学的な諸課題を研究する応用心理学の1つである。この授業の目的は、学校や家庭、地域が抱える今日的な教育課題、例えば発達課題と教育の在り方、学習意欲と学力の状況、知能・適性やパーソナリティの教育臨床、地域コミュニティの学校支援の在り方等に関する諸問題を把握し、それらの課題解決に向けての効果的な実践がいかに臨床の知に基づく「共生」のコンセプトと関わっているかを理解することである。</p> <p>具体的な到達目標は、以下のとおりである。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 発達の個人差、指導や学習の個別化など喫緊の学校教育心理学的な課題を説明することができる。 2. 学力向上などに係る学習指導法の創意工夫、改善などを行うことができる。 3. いじめや不登校などの問題解決につながる教育臨床心理学の諸技法を理解し、活用することができる。 4. 学校教育における多様な評価の意義を理解し、それらを適宜効果的に使用することができる。 5. 学校教育のサポート体制や特色ある具体的な教育行政施策の現況を理解できる。 | | | |
| <p>【授業計画】</p> <p>2 単位 15 回に相当する授業計画は下記のとおりである。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 発達課題と学校教育目標 <ol style="list-style-type: none"> ① 学校教育をめぐる心理学的な諸問題の状況の把握とその分析 ② 認知的諸機能の発達と教育の個別化課題の分析と検討 ③ 社会的規範意識とパーソナリティの発達に関する問題の把握とその分析 ④ 学校教育が求める人間力像についての検討 2. 学習指導をめぐる教育心理学的諸問題 <ol style="list-style-type: none"> ⑤ 子どもは「楽しく分かる授業」を求めていることについて ⑥ 動機づけを高める学習指導の方法の分析、検討 ⑦ 学力向上に関する学校現場の具体的な取組の検討 ⑧ 発達障害の教育心理学的課題の把握と分析、検討 3. 生活指導・生徒指導をめぐる諸問題 <ol style="list-style-type: none"> ⑨ なぜ学校不適応となるかー心理臨床的分析ー ⑩ いじめ、不登校、暴力行為などに対する学校現場の効果的な取組の検討 ⑪ 教育相談活動ーSC、SSC と協働する学校教育コーディネーターの役割ー ⑫ キャリア発達課題と学校における教育達成目標との関連性に関する検討 4. 教育評価をめぐる諸問題 <ol style="list-style-type: none"> ⑬ 児童生徒の学習評価、教師の授業評価に関する検討 ⑭ 学校評価の意義と第三者評価の必要性についての検討 5. 学校と地域の連携・協働 <ol style="list-style-type: none"> ⑮ 学校支援の実態と今後の課題についての分析、検討 | | | |

【評価方法】

スクーリング受講前提出(事前)レポート評価 30%、スクーリング評価 30%、科目履修試験(レポート方式)評価 40%の割合に基づく総合評価です。

【教科書】

無藤隆・市川伸一(編著). (1998). 学校教育の心理学、学文社

ISBN:4762007781

篠置昭男・乾原正(編著). (1990). 学校教育心理学—教育実践の科学—、福村出版

ISBN:45712202806

【参考図書】

自学自修に基づく発展学修のために4冊の参考書と、研究機関誌を紹介します。

① 波多野誼余夫(編). (1980). 自己学習能力を育てる—学校の新しい役割—、東京大学出版会、ISBN:978-4130020077

② 森敏明・青木多寿子・渕上克義(編). (2010). よくわかる 学校教育心理学、ミネルヴァ書房、ISBN978-4-623-05642-2

③ 市川伸一. (2011). 学習と教育の心理学 増補版、岩波書店、ISBN978-4-00-003918-5

④ 日本児童研究所監修. (2013). 児童心理学の進歩 2012年版、金子書房、ISBN:9784760899524

⑤ 日本教育心理学会. (編)の研究機関誌、「教育心理学研究」(年間4号刊行)

推薦理由:例えば、2012年第60巻第1号には、「中学生における親の期待の受け止め方と適応の関連」、「問題行動抑止機能と向学校的行動促進機能としての中学校における生徒指導」、「学習方略研究の展開と展望」などの論文が掲載されている。

⑥ 日本教育心理学会(編)の年刊機関誌、「教育心理学年報」

推薦理由:原則として前年度あるいは前々年度発表された教育心理学の研究動向を解説するとともに、今後それらがどのように発展していくかを展望している。年一度の総会における研究発表・質疑応答にまで言及することもあって役立つ。時には欧文もあって例えば、第51集(2011年度)においては、”Reviews of Psychological Studies and Educational Practices Focusing on Improving Student Learning Skills”と題する論文が掲載されている。

⑦ その他、日本発達心理学会編「発達心理学研究」や日本応用教育心理学会編「応用教育心理学研究」といった研究機関誌がある。以下はこれらの機関誌の論文例である。

「発達心理学研究」第23巻(2012年)には、「授業研究の事後協議会を通じた小学校教師の談話と教職経験」(第1号)、「中高生の生活満足度に対するポジティブな個人内特性と対人関係の関連」(第2号)、「発達障害児の保護者における養育スタイルの特徴」(第3号)、「子どもの発達と地域環境—発達生態学的アプローチ—」(第4号)などがある。

「応用教育心理学研究」の第29巻第1号(2012年)には、「英語学習場における親子参加型レクレーションの効果」、「中学校新任教師のストレス特徴」、「高校運動活動における指導者の関わりと生徒の依存性」などの論文が掲載されている。

いずれも、広義の学校教育心理学に係るものであって、調査研究の手法も含めて、今後具体的な研究課題に取り組んでいこうとするうえで大いに参考になると考える。